

第5回 東京都公金管理アドバイザー会議 議事要旨

日 時	平成30年3月20日(火) 14:00 ~ 15:30
場 所	都庁第二本庁舎 31階 特別会議室 21
出席者	委員) 鶴川委員、大崎委員、大槻委員、根本委員、幸村委員 計5名 事務局) 土淵局長、中澤管理部長、木島総務課長、村本公金管理課長、山下資金運用担当課長、信田課長代理、春日井課長代理、佐藤課長代理、横堀主任、矢島主任、有井主任、山本主任、吉武 計13名
欠席者	なし
議 題	1. 預金先金融機関の経営評価基準等の一部見直しについて 2. 平成30年度債券運用についての対応 3. 平成30年度公金管理計画について
要 旨	<p>(1) 会計管理局長挨拶</p> <p>(2) 第5回東京都公金管理アドバイザー会議の公開・非公開の取り決め 事務局 本会議は、東京都公金管理アドバイザー会議設置要綱第5条で原則公開と定めている。ただし、委員の意見を聞いたうえで、非公開とすることができると規定しており、会議の開催前に、公開もしくは非公開について、委員全員の意見を聞くこととなっている。 委員 議題の内容を踏まえ、全員が非公開にすべきとの意見を表明。 この結果、本日の会議は非公開とすることを決定。</p> <p>(3) 議題1「預金先金融機関の経営評価基準等の一部見直しについて」 事務局 預金先金融機関の自己資本比率に関する経営評価基準の見直しについて説明。 委員 事務局案は、今後の自己資本規制の動向を踏まえた、より適切な基準となっており、見直しを行うことは妥当である。 委員 今後の自己資本比率規制の動向を注視し、金融機関の対応状況等をきちんと捉えていく必要がある。 事務局 自己資本比率規制の動向に引き続き注視して、より適正な評価が出来るよう対応していく。</p> <p>(4) 議題2「平成30年度債券運用についての対応」 事務局 債券発行体の経営状況について、決算状況を踏まえ健全性等の観点から分析を行い、債券発行体の評価等を報告。 委員 債券発行体の評価内容とそれに応じた債券運用の対応については、適正なものである。</p>

(5) 議題3「平成30年度公金管理計画について」

事務局 「金融環境の先行きに注意を払いつつ、安全性を最重要視し、流動性を十分に確保した上で、柔軟かつ効率的な保管・運用を行う」という考えに基づき、「平成30年度公金管理計画」案を説明。

委員 金融環境の認識とそれに柔軟に応じた公金管理計画については、適正なものである。

委員 本計画の運用にあたっては、預金先の分散の観点から、新規拡充への取り組みも、引き続き積極的に進めていくべき。

事務局 預金先金融機関の新規拡充に向けての対応は、今後の金融業界の動向も見ながら、引き続き取り組んで行く。

以上